

(6)教育委員会グループ

発表者 藪中 秀樹 (新宮市教育委員会 指導主事)

1) これまでの防災教育の実施効果

教員側の変化としまして、2年前に実際に釜石に来られた先生から、現地を直接見たということはそれを自分達の町に帰ったときにその姿とかぶる部分があって、より防災教育に身が入ったという話があり、これから中心になっていただけるような現場が育ったという報告がありました。

また、子どもの意識については、具体的な例としまして、尾鷲中学校では、スリッパのようなものを学校の中で履いています。スリッパでは、防災上よろしくないということで、石巻の中学校との交流を経て、「スリッパは変えた方がいいのではないか」という話が子ども側から出てきたということです。子どもたちの提案によって、そのあたりが少し変えられそうだとということです。本当に身近なところで防災を考える子どもたちの様子が見られました。

2) 効果的な防災教育に求められること

実際は学校の中だけでやった方が防災教育はやりやすいという話もありました。そうはいつでも学校だけでは何事も進まないの、やはり行政・地域との連携の中でより効果的な防災教育というのは推進できるのだろうということです。

3) 防災教育を継続的に実践していくための仕組みづくりに求められること

一部の教員任せになってしまっていることは把握しています。その中でも先生方一人ひとりの持つ授業力、教師としてのがんばりをしっかり引き出すという意味からも、教師の「授業魂」という言葉が出されました。しっかりと授業研究、授業参観等をミックスさせたかたちでの授業研究などを開催していくことです。また、山間部と海岸部で防災に対する意気込みが違っていることに対し、そこは同じレベルで防災教育に取り組む姿勢が欠かせないという話になりました。

4) 本協議会で今後議論したいこと

防災教育が学力やいじめなど、様々な分野にどのような良い影響をもたらしているかを、それぞれの市・町でしっかりと見ていただき、交流できたらと考えます。次回開催地についてですが、開催地特権ということで、開催することにより、その地域の若い先生方をどんどんこの会議に引き込むことができ、新しい人材の発掘にはもってこいです。

